



2022年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月10日

上場会社名 カシオ計算機株式会社
 コード番号 6952 URL <https://www.casio.com/jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 樫尾 和宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 CFO (氏名) 高野 晋
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東

TEL 03-5334-4852

(百万円未満四捨五入)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|---------------|---------|------|--------|-------|--------|-------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年3月期第2四半期 | 125,912 | 21.2 | 12,033 | 185.7 | 12,281 | 168.8 | 8,803 | 68.6 |
| 2021年3月期第2四半期 | 103,863 | 28.7 | 4,212 | 74.7 | 4,568 | 70.9 | 5,222 | 59.0 |

(注)包括利益 2022年3月期第2四半期 8,772百万円 (100.5%) 2021年3月期第2四半期 4,374百万円 (43.4%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年3月期第2四半期 | 36.28 | |
| 2021年3月期第2四半期 | 21.53 | |

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---------------|---------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年3月期第2四半期 | 338,297 | 215,298 | 63.6 |
| 2021年3月期 | 332,028 | 211,895 | 63.8 |

(参考)自己資本 2022年3月期第2四半期 215,298百万円 2021年3月期 211,895百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年3月期 | | 22.50 | | 22.50 | 45.00 |
| 2022年3月期 | | 22.50 | | | |
| 2022年3月期(予想) | | | | | |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)2022年3月期の配当予想額は未定であります。

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|---------|------|--------|------|--------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 265,000 | 16.5 | 26,500 | 72.4 | 24,500 | 50.1 | 17,000 | 41.5 | 70.06 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) Casio Holdings, Inc.

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.8「会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|-------------------|------------|---------------|------------|---------------|
| 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 2022年3月期2Q | 259,020,914 株 | 2021年3月期 | 259,020,914 株 |
| 期末自己株式数 | 2022年3月期2Q | 16,369,757 株 | 2021年3月期 | 16,416,422 株 |
| 期中平均株式数(四半期累計) | 2022年3月期2Q | 242,624,346 株 | 2021年3月期2Q | 242,578,886 株 |

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

1.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2.決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 5 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 7 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (セグメント情報) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当上半期における内外経済は、欧米諸国を中心に新型コロナウイルスワクチンの普及が進む一方で、変異株の感染再拡大による影響もみられました。また、前年度より顕在化していた半導体不足の影響が拡大したことに加え、部材メーカーの集積地である東南アジア地域で、感染症拡大に伴う工場生産制限が行われるなど、先行き不透明な状況が続いております。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、時計が781億円、コンシューマが384億円、システムが66億円、その他が26億円で1,259億円となりました。

時計は、部材メーカーの稼働制限に伴う生産影響や、中国における洪水影響を受けましたが、欧米を中心に需要が回復傾向にあり、増収となりました。「G-SHOCK」はメタルラインの『GMW-B5000』や、若者を中心に『GA-2100』の人气が継続し、好調に推移しました。

教育は欧州など一部地域で回復した一方、新興国を中心に休校や在宅授業が続いたことや、国内での緊急事態宣言の発令など、関数電卓、電子辞書ともに継続してコロナ影響を受けました。楽器は物流費高騰による利益影響を受けたものの、年末商戦需要の前倒しにより「Slim&Smart」モデルを中心に好調が継続し、増収となりました。

システムは、主な市場である国内において、コロナ影響による商談案件の延期などを受け、減収となりました。

営業利益は、時計が151億円、コンシューマが26億円、システムが△10億円、その他が1億円、調整額が△50億円で120億円となりました。

また、経常利益は122億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は88億円、1株当たり四半期純利益(EPS)は36円28銭となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、棚卸資産の増加などにより、前連結会計年度末比62億円増加の3,382億円となりました。純資産は、前連結会計年度末比34億円増加の2,152億円となりました。その結果、自己資本比率は63.6%となりました。

キャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは99億円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローは22億円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローは63億円の支出となり、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末比22億円増加の1,392億円となりました。

当グループは今後も引き続き事業資産の効率的運営の徹底を図り、安定的かつ強靱な財務体質の構築に取り組みます。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度の世界経済は、新型コロナウイルスワクチンの普及が進んだことが、経済活動の再開を引き続き後押しすると予想されます。一方で、半導体を中心とした電子部品、及び機構部品の供給不足に伴う価格高騰並びに生産出荷影響の拡大など、先行きには不透明感が残ります。

このような事業環境の下、当グループは、変化への対応力で影響を最小限にとどめ、全社構造改革効果を最大化し対処してまいります。現時点での2022年3月期の連結業績予想につきましては、前回予想(2021年5月13日公表)に対して変更はありません。

(注) 業績見通しについて

①為替水準は1US\$=108円、1ユーロ=126円を想定しております。

②業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。実際の業績に影響を与える要素としては、当グループの事業をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする主要為替相場の変動、製品販売価格の大幅な変動などが考えられますが、これらに限られるものではありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 94,976 | 104,023 |
| 受取手形及び売掛金 | 29,873 | 29,902 |
| 有価証券 | 45,499 | 36,000 |
| 製品 | 35,999 | 38,440 |
| 仕掛品 | 5,331 | 6,051 |
| 原材料及び貯蔵品 | 8,071 | 10,410 |
| その他 | 5,112 | 5,505 |
| 貸倒引当金 | △598 | △637 |
| 流動資産合計 | 224,263 | 229,694 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 33,002 | 32,999 |
| その他(純額) | 24,048 | 23,631 |
| 有形固定資産合計 | 57,050 | 56,630 |
| 無形固定資産 | | |
| | 8,663 | 9,471 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 19,661 | 19,738 |
| 退職給付に係る資産 | 15,179 | 15,720 |
| その他 | 7,250 | 7,082 |
| 貸倒引当金 | △38 | △38 |
| 投資その他の資産合計 | 42,052 | 42,502 |
| 固定資産合計 | 107,765 | 108,603 |
| 資産合計 | 332,028 | 338,297 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年3月31日) | 当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 20,920 | 22,621 |
| 短期借入金 | 153 | 217 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3,634 | 3,636 |
| 未払法人税等 | 1,828 | 2,401 |
| 製品保証引当金 | 740 | 740 |
| 事業構造改善引当金 | 1,342 | 1,280 |
| その他 | 36,605 | 37,587 |
| 流動負債合計 | 65,222 | 68,482 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 49,500 | 49,500 |
| 事業構造改善引当金 | 600 | 370 |
| 退職給付に係る負債 | 558 | 565 |
| その他 | 4,253 | 4,082 |
| 固定負債合計 | 54,911 | 54,517 |
| 負債合計 | 120,133 | 122,999 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 48,592 | 48,592 |
| 資本剰余金 | 65,056 | 65,076 |
| 利益剰余金 | 119,445 | 122,789 |
| 自己株式 | △24,820 | △24,750 |
| 株主資本合計 | 208,273 | 211,707 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 4,522 | 4,571 |
| 為替換算調整勘定 | △3,577 | △3,261 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 2,677 | 2,281 |
| その他の包括利益累計額合計 | 3,622 | 3,591 |
| 純資産合計 | 211,895 | 215,298 |
| 負債純資産合計 | 332,028 | 338,297 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 103,863 | 125,912 |
| 売上原価 | 59,737 | 70,791 |
| 売上総利益 | 44,126 | 55,121 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 給料手当及び賞与 | 15,296 | 15,342 |
| その他 | 24,618 | 27,746 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 39,914 | 43,088 |
| 営業利益 | 4,212 | 12,033 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 153 | 194 |
| 受取配当金 | 77 | 113 |
| 為替差益 | 300 | 80 |
| その他 | 115 | 107 |
| 営業外収益合計 | 645 | 494 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 115 | 104 |
| その他 | 174 | 142 |
| 営業外費用合計 | 289 | 246 |
| 経常利益 | 4,568 | 12,281 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 3 |
| 投資有価証券売却益 | 4,818 | — |
| 特別利益合計 | 4,821 | 3 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 47 | 14 |
| 事業構造改善費用 | 1,832 | — |
| 投資有価証券評価損 | 49 | — |
| 特別損失合計 | 1,928 | 14 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,461 | 12,270 |
| 法人税等 | 2,239 | 3,467 |
| 四半期純利益 | 5,222 | 8,803 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 5,222 | 8,803 |

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 5,222 | 8,803 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △476 | 49 |
| 為替換算調整勘定 | △123 | 316 |
| 退職給付に係る調整額 | △249 | △396 |
| その他の包括利益合計 | △848 | △31 |
| 四半期包括利益 | 4,374 | 8,772 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 4,374 | 8,772 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — | — |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 7,461 | 12,270 |
| 減価償却費 | 5,318 | 5,383 |
| 固定資産除売却損益 (△は益) | 44 | 11 |
| 投資有価証券売却損益 (△は益) | △4,818 | — |
| 投資有価証券評価損益 (△は益) | 49 | — |
| 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) | 26 | 22 |
| 退職給付に係る資産の増減額 (△は増加) | △368 | △541 |
| 受取利息及び受取配当金 | △230 | △307 |
| 支払利息 | 115 | 104 |
| 為替差損益 (△は益) | △445 | △413 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | 5,275 | △862 |
| 棚卸資産の増減額 (△は増加) | 2,728 | △5,477 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △7,742 | 1,625 |
| その他 | 812 | 1,452 |
| 小計 | 8,225 | 13,267 |
| 利息及び配当金の受取額 | 315 | 338 |
| 利息の支払額 | △114 | △105 |
| 特別退職金の支払額 | △274 | △1,140 |
| 法人税等の支払額 | △1,112 | △2,382 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,040 | 9,978 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △340 | △509 |
| 定期預金の払戻による収入 | 339 | 175 |
| 有形固定資産の取得による支出 | △2,090 | △1,902 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 5 | 3 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △2,137 | △3,176 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △3,004 | △3 |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | 5,796 | 3,000 |
| その他 | 16 | 193 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,415 | △2,219 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | 4 | 64 |
| 自己株式の取得による支出 | △2 | △4 |
| リース債務の返済による支出 | △977 | △974 |
| 配当金の支払額 | △5,458 | △5,459 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △6,433 | △6,373 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 623 | 844 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △185 | 2,230 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 134,314 | 137,053 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 134,129 | 139,283 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、顧客と約束した対価に変動対価が含まれる場合、変動対価の額に関する不確実性が事後的に解消される際に、解消される時点までに計上された収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り、変動対価を取引価格に含めております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は828百万円減少し、販売費及び一般管理費は828百万円減少しております。なお、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|----------------------|---------|--------|--------|-------|---------|--------------|--------------------------------|
| | 時計 | コンシューマ | システム | その他 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 60,483 | 31,618 | 9,564 | 2,198 | 103,863 | — | 103,863 |
| (2) セグメント間の内部 売上高 | — | 0 | 20 | 3,060 | 3,080 | △3,080 | — |
| 計 | 60,483 | 31,618 | 9,584 | 5,258 | 106,943 | △3,080 | 103,863 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 10,103 | 715 | △2,462 | 157 | 8,513 | △4,301 | 4,212 |

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,301百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,301百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社管理部門に係る費用並びに基礎研究に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | 調整額 (注) 1 | 四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2 |
|----------------------|---------|--------|--------|-------|---------|--------------|--------------------------------|
| | 時計 | コンシューマ | システム | その他 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への売上高 | 78,157 | 38,431 | 6,698 | 2,626 | 125,912 | — | 125,912 |
| (2) セグメント間の内部 売上高 | — | 0 | 35 | 4,200 | 4,235 | △4,235 | — |
| 計 | 78,157 | 38,431 | 6,733 | 6,826 | 130,147 | △4,235 | 125,912 |
| セグメント利益 又は損失(△) | 15,199 | 2,683 | △1,001 | 164 | 17,045 | △5,012 | 12,033 |

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△5,012百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,012百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社管理部門に係る費用並びに基礎研究に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来「コンシューマ」に含まれていた「時計」について、コンシューマ事業における事業分野、収益構造を明確にするため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。

また、「(会計方針の変更) (収益認識に関する会計基準等の適用)」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方針に比べて、当第2四半期連結累計期間の「時計」の売上高は340百万円減少し、「コンシューマ」の売上高は477百万円減少し、「システム」の売上高は11百万円減少しております。セグメント利益又は損失に与える影響はありません。